

## 熊本・天草紀行(その 2) 有明海横断航路

2020.12 池田良穂

新門司に上陸して、高速道路で熊本に向かい、約 3 時間のドライブで熊本新港に到着しました。この付近は遠浅で深い港の建設が難しかったのですが、それを克服してできた埋立港で、熊本の中心からは車で 30~40 分ほどかかります。

ここでは、旧知の熊本フェリーの井手社長にお会いしました。もちろん、本会の会員でもあります。この熊本フェリーは、日本で唯一、高速カーフェリーの運航に成功している会社で、IHI で建造したアルミ高速船「オーシャンアロー」を島原との間に運航しています。航海時間は 30 分で、旅客と乗用車・バスを運んでいます。同社の詳細は、会誌 18 号に井手社長の記事が掲載されていますので、ご参照ください。

同じ航路には、九州商船の子会社である九商フェリーの在来型カーフェリーが 1 時間の航海時間で運航されており、トラック等の重量車はこちらでなければ渡れません。うまく役割分担ができています航路と言えます。

有明海横断航路としては、この熊本~島原航路の他に、島原から有明海を南北に渡って三池に行く航路に高速旅客船が就航しています。現在は、長崎に本拠地をおく「やまさ海運」が運航しており、1 日 4 便運航で、約 50 分で結びます。

もうひとつのカーフェリー航路が、多比良と長洲を結ぶ有明フェリー(有明海自動車航送船組合)の航路です。3 隻のカーフェリーを所有していますが、今回の訪問時には、2 隻だけが動いていました。



九州旅客船協会連合会 HP より

### 熊本~島原航路



有明海を 30 分で横断する高速カーフェリー「オーシャ

ンアロー」です。高速カーフェリーは高価で、燃料もたくさん必要ですが、1 隻で在来船 2 隻分の働きができるため、航空機のように多頻度で運航すると採算がとりやすくなります。また、重い車両を積むとスピードが落ちて、本来の性能が発揮できません。そこで、高付加価値の乗客と乗用車をターゲットとした高速カーフェリーが登場したわけですが、熊本フェリーはその基本を守って成功しているように見えます。

井手社長のお話では、ターミナルのレストランも熊本フェリーが運営することになり、港に来て食事をして、ふらっと船に乗って往復 90 分の有明海クルーズを楽しむ「クルーズチケット」も販売しているとか。熊本市内の会議場での国際会議の後のバンケットも売り出しているとのことでした。



オーシャンアローの船内です。1階は座席と売店、2階にはラウンジスペースとオープンデッキがあり、海風を浴びながら雄大な普賢岳を眺めて航海が楽しめます。



九商フェリーの新鋭船「レインボーかもめ」と反航しました。今回の旅行の目的の1つは、この船の写真を撮ることでした。



島原港に入港する「レインボーかもめ」です。

**この夏は 家族と！ 友達と！ みんなで LET'S GO!**  
**オーシャンアロー クルーズチケット**  
 大人1,500円 小学生750円  
 大船旅のオープンデッキでリフレッシュしよう！  
 予約不要！どの席もOK！  
 定額運賃に合わせた座席指定サービスあり  
 船内専用スマートフォンアプリで船内情報や船内サービスが利用可能  
 船内専用スマートフォンアプリで船内情報や船内サービスが利用可能

階	船室番号	開航時刻
1	7:30	
2	9:25	
3	11:10	
4	13:00	
5	14:50	
6	16:40	
7	18:30	

無料駐車場も有りです！  
 【お楽しみ抽選券】  
 抽選券は船内専用スマートフォンアプリで利用可能  
 【お楽しみ抽選券】  
 抽選券は船内専用スマートフォンアプリで利用可能  
 熊本フェリー TEL096-311-4100



「レインボーかもめ」と共に、熊本～島原間に就航する在来型カーフェリー「フェリーくまもと」。

**オーシャンアロー ビアクルーズ&花火**  
 夏の思い出にこれを選ぼう！  
 参加者大募集!!  
 プレミアムオーシャンアロー花火クルーズ!  
 大人 9,500円  
 小学生 8,500円  
 【前席定員200名予約制】  
 MICA プレミアムライブ  
 熊本フェリー TEL096-311-4100

オーシャンアローの「クルーズチケット」(上)、「ビアクルーズ&花火」企画のフライヤー。旅客フェリーだからこそこの新企画で需要創成をしていることがわかります。



島原港を出港する「オーシャンアロー」の後ろ姿です。

## 島原～三池航路



高速旅客船「しまばら丸」。2015 年までは島原鉄道の「島鉄 1 号」でしたが、やまさ海運に譲渡されて現船名に変わり、塗装も白一色になりました。



予備船「みいけ丸」は、島原港に係船されていました。

## 多比良～長洲航路



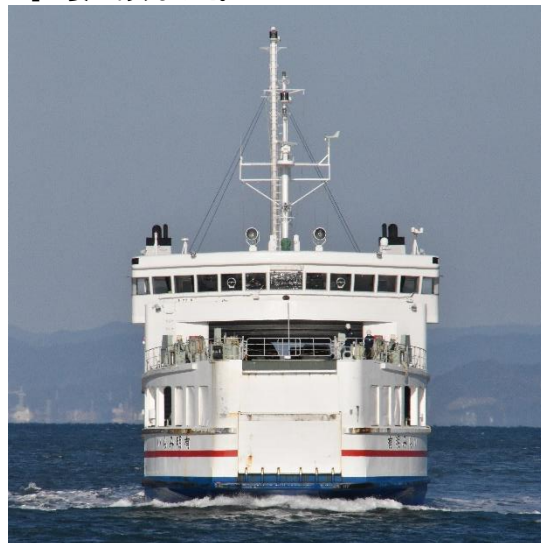
有明フェリーの多比良港の港では、ドライブスルーで切符購入ができます。右の黒い乗用車は乗船手続中です。



多比良港のフェリーターミナルビル。車は、上下 2 層の車両甲板に積載され、2 階甲板には長いコンクリートの坂道を登って乗船します。



多比良港には、係留され船内修理中らしき「サンライズ」の姿がありました。



多比良港に入港する「有明みらい」です。



港に「サンライズ」(左)と「有明みらい」が並びました。



多比良港に入港する「有明きぼう」の姿です。



多比良港のフェリーターミナルビル内に飾られていた近海郵船のフェリー「まりも」の模型です。東京と釧路を結んでいた船なので、有明海横断フェリーとは関係ないはずですが、対岸の長洲には日立造船の有明工場があり、日立造船の系列の内海造船建造の船なので、寄贈もしくは貸与されているのかもしれませんが、筆者は、学生時代に一度だけ同船に乗船した記憶があり、懐かしい姿でした。1972年の建造ですから、かれこれ半世紀前の船になります。